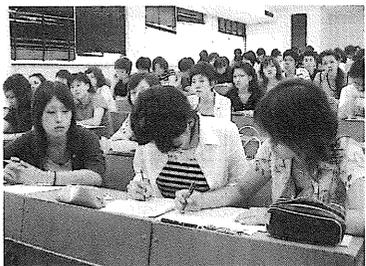


〈九州支部〉  
**障害学生修学支援ネットワーク  
 事業（相談事業）の開始に伴う  
 拠点校 福岡教育大学の取組**

日本学生支援機構（JASSO）は、昨年九月六日九州・沖縄・中国・四国地区の学生系職員を対象に「第五回（平成一八年度第一回）障害学生修学支援セミナー」を福岡で開催した。セミナーは、「障害学生への我が校の取り組み」を講演テーマに沖縄大学玉城真紀乃氏、福岡教育大学大平壇氏が講師となり、大学の取組の紹介と、石田久之機構客員研究員から「はじめて障害学生を受け入れるにあたって」と題して特別講座が行われ、参加者は熱心に受講していた。さて、日本学生支援機構によって平成一八年一〇月に「障害学生修学支援ネットワーク事業（相談事業）」が全国六大学を拠点校として事業が開始された。これを機に、拠点校となった福岡教育大学の取組をご紹介します。

〈福岡教育大学障害児教育講座助教授 大平 壇〉  
 本学における現在の取組体制についてまず説明したい。本学の取組体制の特質は、固定されたシステムではなく、

平成一三年度から教育実践総合センターを中心に学内有志で運営された組織である。そのなかに障害児教育講座教員の有志数名を中心とした分科会が存在した。そこでは障害学生への支援を中心にした諸問題の検討を行ってきた。法人化とともに発展的解消した旧学内FD研究会活動は、現在も教育実践総合センターの活動の一環として、当初メンバーによって継続的に行われている。その成果は現在に至るまでに五冊の報告書にまとめられている（すべてオンラインで閲覧可能<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/dohira/FD>）。特に平成一三年度報告書では身体に障害のある学生支援懇談会設置以前の本学の取組（入試、施設整備、保健管理センター等）、平成一七年度報告書では同懇談会設置以後の取組のまとめ・報告を行っている。その中で具体的な内容はそれぞれを参照いただきたい。また、一般的な障害学生への取組については、他機関との情報交換（メディア教育開発センター主催SCS研修「高等教育に学ぶ障害者への配慮と学習支援」）の記録を蓄積している。さら



ノートテイク風景

実質本位の柔軟な実施体制であることといえよう。実際の取組において実質的に核となっているのは、

- ① 身体に障害のある学生の支援懇談会
- ② 旧学内FD研究会（現附属教育実践総合センターFD活動有志協力）障害児教育・通常教育関連分科会
- ③ 特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）

である（入学前、入試は制愛する）。①は、本学のシステムとしては最も公式なものであり、関係部局長や担当者を中心に組織される支援機関である。これは平成一三年度に視覚障害学生の入学に際して設置された。とはいえ、これも常設ではなく、学生が支援を求めてはじめてそのつど設置される柔軟な組織である。多くの大学において、大学経営の効率化を求められる現在、新たに障害学生への支援のための組織を作ることには人的資源をさく余裕がない、というの大きな障壁となっていると思われる。この点で本学の支援体制は有効であろう。また、制度の形骸化にも対処できる。しかし短所もある。本来的には障害学生が在籍しなくとも、来る場合に備えて計画的に人的・制度的・物的環境を整備することも重要であるが、固定された責任部局が存在しないことは、それを困難にする。

- ③ 本学においてその点を実質的に補っているのが、次の②、③である。まず、②旧学内FD研究会であるが、法人化前

に他大学、外国における取組の調査・報告や、学長裁量経費（在外旅費）による海外視察と報告も行っている。

次に③特色GPであるが、本学は平成一六年度に「障害児支援経験を通じた教員養成プログラム」豊かな人間性と高い指導力を目指して」が採択されている。詳細はウェブページを参照いただきたい。（<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/dohira/gp>）。全教員志望学生にできるだけ障害のあるひとへの支援経験の機会を提供する観点から、障害学生への支援を新規に取り入れた。具体的には聴覚障害のある学生へのノートテイク、視聴ビデオへの字幕作成ボランティアであった。①の懇談会がボランティア学生のコーディネーターを行い（通常の支援）、特色GPでは技能講習会、設備面の整備を請け負った。

このように本学の取組は、システムとして必ずしも完成したものではないが、必要に応じて既存のものを最大限に利用しながら実質的に対応しているものである。

最後に、拠点校としての本学の役割について述べたい。今のところ九州地区では、JASSOを核とした大学間で提携した「障害学生修学支援ネットワーク事業」が動き出したばかりである。本学の性質から言っても、まずは相談が来てからその対応や、JASSO九州支部を含めた協体制などを作り上げていくことになろう。